

## 会員の輪

### 「楽しさ実感～私は一男一女のお母さん♪」

まつら なつこ  
松浦 菜摘子 (大田市)



今年度このコーナーでは、あすてらすネットワーク会員のNewフェイスをご紹介します。最初にご登場いただくのは、大田市在住、笑顔がチャーミングな松浦菜摘子さんです。平成25年度の会員交流会でデビューをした、ピカピカのワーキングマザー会員さんです♪

#### \*一姫二太郎\*

女系一家で生まれ育った私が、母になり、2人の子どもを授かった。第一子は女の子。よく食べよく寝て、物事の理解力もあり、病気もしないし育てやすい。第二子として産まれた男の子は、でっかく生まれたのに乳を飲むのが下手くそで、小さく育った。風邪をひけば長引くし、ハ虫類の細菌による腹痛で1カ月間入院もした。集中力には目を見張るが、気乗りしないものには見向きもしない。



#### \*女の子だから・男の子だから\*

この第二子に対し「なんでまだしてないの?」「ケンカするな!」と、怒声を浴びせかける自分を反省し、怒らない子育ての本もいくつか読んだが、理想の子育てとはほど遠い現実だ。子育ての先輩方は「男の子だけえ、しょうがないわね」と言う。ふーん。男の子って、しょうがないのか。第一子の娘がやっていることを、「男の子だから」しないでも許されるのは釈然としない。何より『やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば...』が実践できるほど私の器は大きくないのだ。



#### \*個性\*

それでも子育ては楽しい。子どもたちは、私のために花を摘んだり、【おかあさんのえ】と題したすばらしくカラフルな絵を描いてくれる。しかし、男の子の「お母さん、見て～」はうかつに直視してはいけない。たいてい握りつぶされて圧死したバッタだったり、葉っぱの裏にびっしりと生みつけられた卵だったりする。怒声は悲鳴に変わる。



#### \*それぞれの成長\*

がんばり屋のこの女兒もいつかつまずき、頼りないくらい細いこの男児の腕も、いつかたくましくなるのだろう。そのときに私の器も大きくなっているだろうか。“子育ては親育て”と聞いたことがある。この子たちと共に、私も成長できることがうれしい。そして、子育ての幸せを実感できるのは、働くお母さんである私を支えてくれる、家庭と職場の理解、地域支援のおかげだ。子育てを卒業したとき、社会に恩返しできる私になりたい。





〔分類番号: 女性問題 367.19〕

**毒婦たち**

東電 OL と木嶋佳苗のあいだ

上野千鶴子、信田さよ子、北原みのり/著  
河出書房新書 (2013/10)

婚活サイトをめぐる詐欺罪と6人の男性の不審死で死刑判決を受けた木嶋佳苗。東京電力のOLが殺害された事件。日本社会の「男目線」での語りが蔓延し続けている現状に辟易する著者の3人が、2つの事件の共通点と、なぜ起こったのかを「女目線」で大いに語り合っている。対談を通じて、事件の概要からは見えない考え方に気づかされた。(ま〜)



〔分類番号: 916〕

**親ケア奮闘記**

がんばれ、母さん。たのむよ、父さん。

横井孝治/著  
第三文明社 (2013/11)

高齢者介護は社会的支援に恵まれているように見えるが、実は適切な制度にたどり着くのに苦労する。その泣き笑いの道のりが如実に記された本書は、介護体験者にとって涙なしには読めない1冊。支援サポートを受けてほっとした著者に見えてきたのは「家族の絆」だった。(白くま)



〔分類番号: 女性問題 367.3〕

**産後クライシス**

内田明日香、坪井健人/著  
ポプラ社 (2013/11)

出産は、「家族の幸せの始まり」であると同時に、「夫婦の危機の始まり」でもある。本書は、赤ちゃんの誕生を機に夫婦の愛情が急速に冷え込む現象を「産後クライシス」と名付け、そのメカニズムから回避するための心構えまで紹介している。夫婦が、出産前後の妻や夫の環境の変化や意識の違いを認識し、理想とする家族像を確認することが大切ではないだろうか。ぜひ、夫婦で読んでほしい1冊。(なな)

information

- 情報ライブラリーでは、所蔵資料を紹介する目的で毎月テーマを決めて書籍等の展示・貸出を行っています。
- 6月のテーマは「男女共同参画推進月間」です。● テーマ展示や新着図書、DVD等の情報はホームページで随時お知らせしています。どうぞご利用ください。 <http://www.asuterasu-shimane.or.jp/lib/>



つぶやき



昨年秋に父が亡くなり母の一人暮らしが始まった。県内で離れて暮らしていた弟が同居を決心してくれた。しかし地元での再就職が難しく弟は週末の実家通いを続けている。増えている「介護離職」。弟に仕事とこれまでの生活を捨てさせるのも忍びなく、私も遠方からのサポートしかできず…心揺れる毎日である。(まゆ)

夫のリタイア後一緒に農作業をすることになり、この3月からは手作りジャムの販売を始めました。思いのほか売れ行きが良く、材料が底をつきうれしい悲鳴です。販売促進のためにサクラを務めるはずだった夫はもっぱらキャップ閉めに専念の日々。運が良ければ道の駅で私のこだわりジャムに出会えますよ。(はっしー)

はっしーさんの手作りジャムは6月14日あすてらすで開催する男女共同参画フォーラムの「情報 Market カフェ」で販売します。数量限定ですでお早めに♪

あなたの情報をお待ちしています!

本紙の内容について、ご意見、ご感想をお寄せください。また、みなさまの活動についての情報や報告等もお待ちしております。住所・氏名(グループ名)・電話番号を明記の上、郵送、FAX、メールにてお送りください。原稿は400字以内(「つぶやき」は140字程度)、イラスト等は葉書大以内でお願いします。掲載させていただいた方には、500円分の図書カードをさしあげます。送付先、お問い合わせは、公益財団法人しまね女性センター事業課(TEL0854-84-5514)まで

